

2022年4月2日(土)

主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会

第6回保護者のための特別支援教育講演会②

特別支援が必要な子どもの進路の話

- 不登校や特別支援学級から進学できる高校がある
- 通常級と支援学級、支援学校で何が違うのか？

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校中学部の進学率は、
岐阜県 98.4% (全国 98.3%)

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は
岐阜県 38.0% (全国 32.3%)

なんと3人に一人しか就職できていない！

これが現実！「保護者として」「学校として」
「行政として」「児童発達・放デイ」として、今
から何ができるのか？を早期から考えて、療育を
進めていくいく必要がある。

『天を望みて、地を歩む』

→18歳の出口を考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか？

→毎年変わる担任、責任がもてない？

《まず18歳以降の三つの生き方を考える》

1 手帳を使って「障害者」として生きていく

2 手帳をもたずに「健常者」として生きていく

3 1と2の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

それでは、中三以降どのような道に進むか

「特別支援学校高等部」進学か？

それとも「高等学校進学」か？

×現在中3卒業後社会に出る子は100人に一人？

1 特別支援学校高等部進学の場合

○通常の支援学校高等部に進学

○高等特別支援学校高等部進学 (学力必要)

2 高等学校進学の場合

○通常の公立・私立の高等学校 (内申点必要)

○特別な高等学校（支援学級から進学可能）

（例）通信制サポート高校や専修学校

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)

2 何が違うのか (2) 支援体制

3 何が違うのか (3) 進路

4 身につけなくてはならない力

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、生活単元中心
学習よりも、「自立して生きていく力」を身につけていくことが最優先！！

☆小1では、ほとんど学習を行わず身辺自立最優先！！

☆小3から「ひらがな練習」ということもある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的学級）は、

生活単元＋教科の授業

基本的に支援学校と同じ！

しかし、その子に合った学習も進めていく。

通常級の交流もその子に合わせてある。

☆「ひらがな」は小1から指導する。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（情緒学級）は、教科の授業＋自立活動（生単無し）基本的に学年の教科学習を行い、SSTなどの自立活動を行う。→その子によるが、**通常との交流も多く、通常学級に戻るケースも多い。**

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通級指導教室は、

「言葉」と「情緒」の2種類が多いが
(情緒が『ADHD』や『LD』のよ
うに詳細に分かれている所もある)

通常級に籍を置き、週に1～数時間抜き出しで個別の指導を受ける。

※**自校通級**と**他校通級**の場合がある

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常学級は、教科の授業中心

原則、担任一人で、30人の子どもたちを担任。

合理的配慮を行わなくてはならないが、現実には難しい。

※通常級に6.5%の発達障がいの子ども

どのような基準で分けるのか？

判定は、市町村教育委員会

就学指導委員会・教育支援委員会等の名前

(教育委員会担当職員＋校長会代表＋専門医＋支援学校教員＋発達支援センター＋教育長等)＋保護者の願い等書かれた書類

①身辺自立ができているか。

②知的な遅れがあるか。

③情緒面の問題がないか。

※原則定例・・・臨時も有

変更する場合は、

まず、校内の支援委員会で決定

(校長＋教頭＋主幹教諭＋教務＋学年主任＋コーディネーター
＋養護教諭＋支援学級担任＋通級の先生)

校内委員会で変更の必要があるとされると

まず、保護者に連絡

保護者の理解が得られると
教育委員会に書類が行く。

→校内委員会の通り進む

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 **何が違うのか (2) 支援体制**
- 3 何が違うのか (3) 進路
- 4 身につけなくてはいけない力

支援学校→担任が2人

支援学級→担任が1人
+支援員（県・市町村）

通常学級→担任が1人
+支援員（県・市町村）

☆小3からは基本担任1人

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 何が違うのか (2) 支援体制
- 3 何が違うのか (3) 進路
- 4 身につけなくてはいけない力

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、高等部まで支援学校

通常の学校（支援学級）への変更は、事例としてほとんど無い。

→よほどのことがないかぎり通常の学校が受け入れない。

→手帳を使って、障がい者枠でよりよい就職先をめざす。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的）は、最終的に支援学校高等部→就職が多い

《理由》

知的な遅れがあるため、高等学校の学習についていけず、卒業することができないと判断される。高等学校は、留年がある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（情緒）は、手帳がないと高等学校進学をめざさなくてはならない。（支援学校定員一杯）

《理由》

平成10年から支援学校在籍者は2倍に増え、日本全国で2300以上の支援学校クラスが不足状態

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常学級や通級は、原則高等学校進学をめざさなくてはならない。

（通級は通常級にもどす努力）

《理由》

現在は、単位制や通信制など様々な高等学校ができています。

→将来をみすえた支援が必要！！

不登校や特別支援学級から進学できる 『特別な高校』

- ①公立の定時制高校や単位制高校
☆新規：インクルーシブ校
- ②特別支援が必要な生徒を受け入れてくれる私立高校
- ③通信制高校（サポート高校）
- ④専修学校（通信制＋専門学校）

①公立高校 特別支援対応校

(定時制・単位制・インクルーシブ枠・通級)

『北海道有朋高等学校』(札幌市北区屯田)

- 定時制高校 . . . ◎安い ○4年制も有
(今は、“夜間”とは限らない)
- 単位制高校 . . . ◎安い ◎登校が少ない
(学校によって様々な仕組み)
- インクルーシブ枠
(通常の高校に特別枠が数名ある)
- 通級 小中と同様の制度が高にも
(まだまだ見切り発車のところがある)

②私立高校 特別支援対応校

(実質少人数で丁寧な支援・指導)

『池上学院高等学校 総合』(札幌市豊平区)

○支援学級や内申点がなくても受け入れOK

○卒業後の推薦枠を多く持っている

※高校から中学校に事前の説明に来ている

※中学の先生に問い合わせれば教えてもらえる

(例)

本当の定員は1クラス40名であるが・・

実際は20名程度で手厚い支援が受けられる

③通信制高校

(たくさんの支援が必要な生徒も受け入れ可)

『北海道芸術高等学校』(札幌市中央区)

○出席日数に対して理解がある

○74単位で高卒という、少ない学習内容

○少人数・個別中心の指導

※「スクーリング」には参加する必要あり

▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる

・通信制高校行ってもいろいろなタイプがある

《通信制高校の主な具体的な校名》

◎北海道芸術高等学校（中央区）の他にも

◎精華学園高等学校（中央区）

◎飛鳥未来高等学校（中央区）

◎星槎国際高等学校（厚別区）

◎NHK学園高等学校（中央区）

◎ヒューマンキャンパス高等学校（中央区）

◎N高等学校（中央区）

◎第一学院高等学校（北区）

◎トライ式高等学校（北区） ※まだあります

《通信制高校の卒業の条件》 登校型・自宅型色々あり



『修業年数』

在籍期間が3年以上（飛び級×）

『単位修得』 74単位以上

・レポート ・スクーリング

+ 『特別活動』

合計30時間以上

※様々な活動有



④専修学校（専門学校＋通信制高校）

『札幌ミュージック&ダンス』・放送専門学校高等課程

※「専門学校」＋「通信」で学習内容は多い
（その内容に興味があれば◎）

▲「専門学校」＋「通信」で学費が少し高い

○基本、毎日朝から夕方まで出席する必要あり

○74単位＋専門学校の学習

（注意：国家資格は受かるとは限らない）

○基本、1クラス40人近い大人数の学習

・専門学校の内容にはいろいろなタイプがある

入学できることより「卒業できる」学校か？ 『卒業後の進路は大丈夫か？』を考える

《進路選びのポイント》

- ①入学試験は何か（学力試験の有無・面接）
- ②進級・卒業の条件
（期末試験の有無・卒業単位数74～110）
- ③先生の専門性（どんな先生がいるのか）
- ④出席日数が一定量必要な学校なのか
- ⑤少人数・個別対応をしてくれる学校か？
- ⑥卒業後の進路や就労の面倒を見てくれるか
- ⑦卒業までの学費はどれぐらい必要か？

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 何が違うのか (2) 支援体制
- 3 何が違うのか (3) 進路
- 4 身につけなくてはいけない力

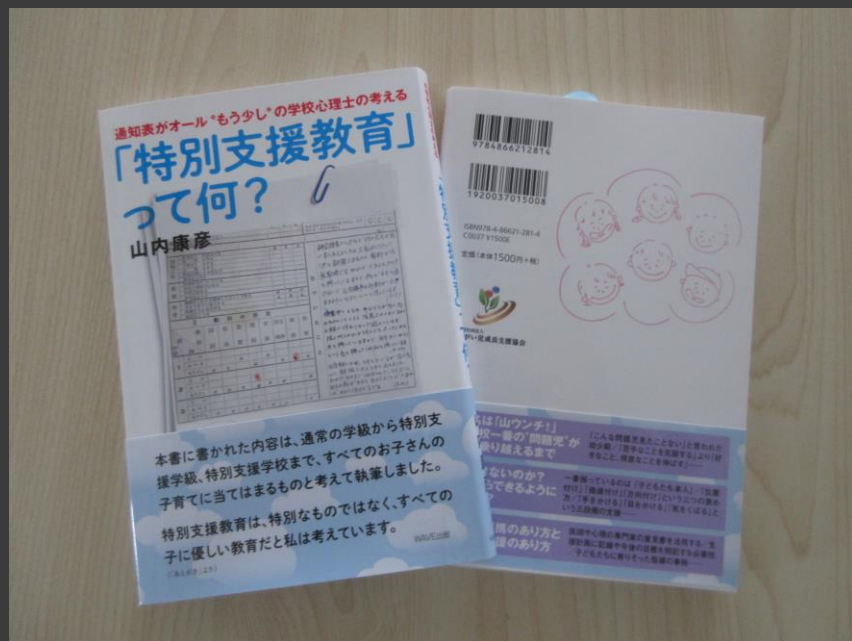
必要な学力は、中3の出口によって変わる

※今から目標を決めて取り組む必要がある

- ①通常の特別支援学校→学力は関係なし
- ②高等特別支援学校 →小4～5年程度
- ③通信制サポート高校→小6年～中1程度
- ④専修学校 →中1程度
- ⑤特別支援を受け入れる公立・私立高校 →中1～中2程度
- ⑥通常の公立・私立校→中2～中3程度

(注) 通常の高校の場合は学力がないと
“留年” になってしまふことが多い！

困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です



**特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです**

ご清聴ありがとうございました。